

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971300090		
法人名	社会福祉法人悠々の郷		
事業所名	グループホーム生きいきの里		
所在地	栃木県那須塩原市塩原814		
自己評価作成日	令和2年9月20日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者が自分でできることは、なるべく行ってもらい、役割や生きがいを感じて頂けるよう支援している。利用者がその人らしくその人のペースで暮らして頂けるよう支援している。季節の行事を行ったり、外出の機会を多く持ち、利用者が楽しみを感じたり気分転換が図れるよう支援している。ただし、今年の2月頃からは、新型コロナウイルス対策のため、外出は原則控えています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和2年11月6日		

<p>県内有数の観光地、緑豊かな温泉地に当事業所は位置している。平成17年の事業所開設後、「ご利用者の自分らしさを大切に地域の中で家庭的な雰囲気のもと居心地のよい共同生活を送れるようご家族と共にお手伝いさせていただきます。」という理念を職員が皆で考え、利用者が持てる力を発揮しながら楽しく暮らせるよう支援している。家族との関係を密にし、職員同士も風通しの良い関係を築きながら、より良いケアができるよう努めている。湯量豊かな温泉かけ流しの風呂は、特にリラックスできる場となっている。夜間は夜勤の職員の他に宿直の職員がいることが、利用者の安心になっている。家族の協力を得ながら積極的に外出を実施してきたが、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛している。気分転換が図れるよう、事業所内で体を動かす活動を取り入れており、職員と共に笑い声が絶えない、温かい家庭的な雰囲気の事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として暮らしていくことを目指す理念を作り、壁に掲示したりして実践につなげる取り組みをしている。	理念は、事業所開設後職員が皆で作あげた。事業所入り口に掲示して、職員は理念を基にケアに努めており、利用者が自分らしさを大切に、持つ力を発揮しながら心地よい生活ができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり、自治会費を払ったりしているが、日常的な交流は乏しい。	近所は高齢者が多く、空き家も多いが、自治会に加入しており、回覧板により、祭りの案内、学校だより、市の情報を得ている。今後、年4回の朝の清掃活動に、利用者・職員の参加を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にそのような機会は設けていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の一環として個別にサービスの実際や評価について意見交換を行っている。ただし、新型コロナ流行後は電話等で行っている。	利用者、家族、自治会長、市役所職員、包括支援センター職員の参加のもと、2ヶ月毎に開催している。グループホームだよりによる活動報告をもとに意見交換が行われている。現在、新型コロナウイルス感染防止のため電話等による意見の聞き取りで会議を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらう程度で、特に密な関係は築いていない。	市の職員とは、事務手続きを円滑に行い、毎月のテレファックスによる事業所の空き情報の報告を行うなど、適切な関係を築いている。運営推進会議における繋がりで定期的に情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束に当たる内容を理解し、実際に身体拘束はしていない。	法人全体で開催する内部研修の中で、身体拘束についてのテーマを扱い、職員が学んでいる。研修に出られなかった職員には資料により、情報を共有している。職員同士ケアの中やミーティングの中で、適切ではない言葉についても注意し合っている。玄関の施錠はせず、エレベーターも夜間以外は作動する状態に保っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで学ぶ機会を持ち、虐待はしない、させない、を徹底している。		

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護関係は勉強不足と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での場で意見、要望を発信してもらっている。	普段は家族との面会時、また電話のやり取りで事業所と家族の良好なコミュニケーションが図られている。家族の意見を取り入れて、運営推進会議の開催日を日曜日にしたり、面会時間の制限をなくしていつでも面会できるようになった等、運営に反映している。新型コロナウイルス感染防止のため、現在は面会が制限されている。	新型コロナウイルス感染防止のため、面会が制限され家族が事業所を訪れる機会も減るなど、事業所とのコミュニケーションも減っているため、事業所から電話等を使い、積極的に利用者の状況を家族に伝え、コミュニケーションを密にすることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなどで機会を設けている。	職員は申し送り時に口頭で、または申し送りノートに書くなど、自由に意見を伝えることができる。特に個人面談の機会は設けていないが、日頃から活発に職員から給料面での要望他、意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ある程度は努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の地域密着型サービス事業者連絡協議会の集まりなどで交流や情報交換を行っている。		

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ある程度は導入の段階で聞いてはいるが、サービスを実行していく中で困っていることなどを発見し、徐々に安心できる関係ができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、契約時などに聞いており、まずはそれなりの関係ができている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で本人の状態などからグループホーム向きではないと判断される場合は、他の施設や在宅サービスの利用を勧めるなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の下ごしらえや洗濯物たたみなど、本人のできることを行ってもらい、助け合って生活を成り立たせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とふれあう機会を作る意味でも、定期的な通院は原則家族に行ってもらっている。お盆や正月などに外泊をしてもらうよう勧めている。ただし、新型コロナ流行後は行っていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の知人、友人の面会は少ないため、地域の祭りのときなどは積極的に外に出ている。ただし、新型コロナ流行後は行っていない。	利用者が併設のデイサービス利用者の友人と会ったり、本人の家に帰ったり、昼食を外でとったり、以前は外泊したりと、積極的な外出の支援をしてきた。新型コロナウイルス感染防止のため、現在は外出や面会は制限している。家族にはスマートフォンで撮った写真を渡して顔を見せるなど、工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う利用者同士を隣席にして会話をしやすくしたり、レクリエーションを一緒に行ったりしている。		

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は、病院や特養に移ったケースがほとんどで、移った先にも相談員などがあることもあり、特にこちらからは支援していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がなにをしたいのか、外出したいのか、その日どんな服を着たいのかなどの希望を聞いている。聞き出すことが困難な場合は表情などから判断している。	本人の意向の把握で、耳は遠くても話すことができる利用者が多いため、ぬりえや計算ドリル、着たい服など、選ぶものを目の前に示し利用者が選びやすいよう工夫している。意思表示が困難な場合は、表情からいいか悪いか判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの茶碗や調度品、家族の写真などを持ってきてもらっている。入浴前にデイサービスを利用していた利用者の場合、デイサービスに行くことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定や一日を通じて各利用者の表情や活気があるかどうかなどに注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会に来た時などにケアプランの実施状況の説明やモニタリングを行っている。	家族とは日頃のやり取りからケアについての希望を聴き取り反映している。モニタリングは一年を目安にミーティング等で話し合い、状態の変化等あればケアプランに反映させている。部分的に修正しながら、大きい変化にも対応するよう現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録を行い、必要なものは申し送りをしたり、申し送りノートに記入したり、ミーティングで検討したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化するニーズには対応しているつもりである。		

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りや観光施設に出掛けたり、近所の床屋さんに出張してもらったりしている。ただし、新型コロナ流行後は出掛けていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関に受診してもらい、事業所としても必要に応じ医師などと情報交換を行っている。	一部の利用者以外は事業所の協力医をかかりつけ医としている。受診、代診は家族が行うことが原則で、利用者の状況をメモで家族に渡し、受診後の情報も家族から聞き取りを行い、円滑に安心して医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには看護師がいないので、階下のデイサービスの看護師に利用者の異変などについて、必要に応じ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるよう、また、どの程度まで回復すれば受け入れられるかなど病院の相談員などと連絡は密におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度者や終末期のケアは可能かどうか検討はしたが、条件的に困難な面があると思われる。重度化や常時医療が必要になった場合は、特養や病院に移ってもらう旨、説明している。	現在、この地区に看取りに必要な往診できる医師がいないこと、事業所に看護師がいないことから、看取りの体制をとることは困難である。そういった中、事業所としては利用者が物を食べることができうちは、この事業所でできるだけ長く終末期を過ごすことができるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、火災に対する通報、避難訓練は行っている。地域との協力体制は課題である。スプリンクラーがあり、消防署がすぐ近くなのが幸いであると思っている。	消防署立会いの基年2回、通報など自主訓練2回の年4回行い、3回は併設のデイサービスと合同で、1回は単独で夜間想定した避難訓練を行っている。夜間は夜勤と宿直二人体制である。消火器などの設備は業者が管理している。備蓄は、缶詰、乾物、乾麺などを常備している。懐中電灯も設置している。	夜間は2人体制ではあるが、年4回の避難訓練以外に、小さなポイント防災訓練を行ったり、職員間で避難や防災について話し合う機会を持ち、全職員が避難方法や防災について意識する機会を作ることが期待される。

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に「です」「ます」で会話を行っている。トイレの声かけなどはできるだけ周囲に聞こえないよう小声で行っている。	呼び名は〇〇さん付とし、入室の際はノックしている。トイレ誘導はさりげない声掛け対応をしている。広報誌など、個人情報については同意を得ている。事業所に事務所として区切られたスペースはないので、書類の管理は書棚で目隠しをし、使ったらすぐ戻すようにして管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時の飲み物やお菓子、着る服などは、何種類かの中から選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険などが無い限り、利用者の行動は基本的に制限しない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、整髪などの支援や好きな服を着てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもの皮むき、テーブル拭き、下膳、食器拭きなどを一緒に行っている。利用者と職員は一緒にテーブルで食事をしている。	献立はその日の担当職員が、冷蔵庫にある材料を見て、近日中の献立の実績をみながら決めて調理している。食材は事務員の買い出しと、冷凍食品を扱う業者からの配達で賄っている。季節の行事食も取り入れている。利用者はできる範囲内で食事に係わり、職員と一緒に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸が使いにくい利用者にはスプーンなどを使ってもらっている。自分で十分に食べられない利用者には、介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後ではないが、朝夕は入れ歯の洗浄や口をすすぐなど本人の力に応じて行っている。		

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所が分かりづらい利用者の場合には、誘導したり、尿便意が曖昧な利用者は声かけしたりしている。全員が布パンツかリハビリパンツ、パッドで対応している。	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をさりげなく行い、全利用者が介助によりトイレでの排泄ができるよう支援している。ポータブルトイレを使ったり、リハビリパンツやパットを適切に使用することで、夜間でもオムツを使うことなく自立した排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、ヨーグルトや牛乳などの便秘に良い食品を日常的に摂ってもらっている。また、屋内外の散歩などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望にできるだけ沿いたいと考えているが、デイサービスと風呂を共用していることや風呂番が一人のため、各利用者は週2、3回の入浴となっている。	週に3回程度午後、3～4人を目安に入浴できるよう支援している。温泉かけ流しで、たっぷりの湯につかってゆったりできている。基本は一对一で洗髪と背中流しを介助し、必要な場合は二人で対応している。入浴に気の進まない利用者には声掛けに工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を希望したり、体調がすぐれない場合は、随時横になってもらうなどしている。夜間、不眠を訴えたりする場合は、話を聞いたり飲み物を飲んでもらったり、室温を調節するなどして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の説明書などで作用、副作用、用法などを確認している。必要に応じ、薬を手渡したり、口に入れたりするなどの介助をしている。症状の変化などがあれば、通院時などに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやゲームなどできる範囲で行ってもらっている。過去の趣味は把握しているが、本人の現状から実現困難な場合がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出したいかどうか意思を確認し、近所の散歩などに出掛けている。家族と外食などに出掛けてもらっている。ただし、新型コロナ流行後は行っていない。	デイサービスと共通の車でドライブしたり、近所の散歩に出かけるなど、できるだけ外出の機会を作ってきたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため法人の指示もあって自粛している。外出が少ない分、身体を動かすゲーム、ラジオ体操やリハビリ体操を取り入れて気分転換の機会を作っている。	

グループホーム生きいきの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理している利用者は少ない。そうでない利用者の場合、家族からお金を預かりグループホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などへ電話を希望する場合、電話をかける支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間において、特に不快感や混乱をまねくことはしていないつもりである。お正月飾りや七夕飾りを飾ったりするなどの工夫をしている。	窓を開放したり、換気扇を付けたままにしたり、加湿器や空気清浄器を使ったりして、換気を欠かさないように努めている。手すり、テーブルの拭き掃除は欠かさず行っている。職員が壁に季節に合わせて飾りつけたり、利用者の写真や作品を飾り、楽しめるよう支援している。トイレの案内表示も利用者にわかりやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの他に畳の空間や廊下などに長椅子を設けたりして、各自自由に利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などに本人や家族と相談し、馴染みの調度品や植物、写真などを自由に持ち込んでもらっている。	ベッド、マットレス、洗面台、カーテン、クローゼット(部屋により)が備え付けられている。敷き・掛け布団、テレビ、冷蔵庫、加湿器など、自由に持ち込むことができる。鉢植えを置いて、水やりする利用者もある。掃き掃除、拭き掃除は職員が中心に行い居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かりづらい利用者のために貼り紙をするなどの工夫をしている。		